実践事例と分析

実践事例２「ＥＵものがたり」実施学年１学年

１　本単元の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）
　難民問題を自国の問題として捉え、「人道主義」「自国優先」のどちらかではなく、双方を意識しながら、これからの日本のあり方について考えてほしい。

●題材（　EU ものがたり　）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）
　ヨーロッパ州は豊かな地域であり、さまざまな国が統合し、いろんなメリットを享受しながら発展しているなんてすごい。

探究的な学び

他者と語り合う

（学習後）
　ヨーロッパ州の中にも信じられない格差があり、それらの国が一つになって何かをするのは難しい。ＥＵって何なんだろう。

≪(授業者が考えた)単元学習後の「振り返り」例≫　＊「自己に引きつけた語り」部分

　私ははじめヨーロッパ州はすべての国が豊かであり、EU として１つになって加盟国がどんどん発展していると思っていた。そんなヨーロッパの中で、自分の担当する国が決まった。ラトビアだった。全く聞いたこともない国だし、どこにあるのかも分からなった。調べていくと、とても小さい国で他の国と比べた時に正直弱い国だと思った。けど、美しい田園風景が有名だったり、バルトのパリと呼ばれていたり、他の国に負けないくらい良さがあって、だんだんラトビアに対して愛着が湧いてきた。そんなラトビアから見る EU は私が思っていたものと全然違った。EU と言えば、自由に国境をまたいで移動できるとか、自由と発展が待っていると思っていたからだ。けど、EU に加盟して、私の国は人口が 20%も減ってしまった。自由に移動できるようになって、裕福な国へみんなが移住してしまったからだ。シェンゲン協定を続けるべきかどうかを議論した時には、周りの国の冷たさに傷ついたし、腹が立った。自分の国のことばかりで、元々の EU の理念とはかけ離れたものだったからだ。正直 EU って何なんだろうって思うようになった。そんな EU が直面しているのが難民問題だ。シリアの何も罪のない子が地中海で亡くなったことを知ってショックだった。助けたいと思った。けど現実ではギリシャやハンガリーが国境に柵を作り、難民を追い払っておりとても腹が立った。かつて戦争の悲惨さを経験したヨーロッパだからこそ助けるべきなのに。けどダブリン規約や難民をどのように各国で配分すべきかについて考えていく中で、助けたいという思いはあるけれど、いつの間にか、裕福な国に押し付けたいと思うようになっていた。助けたいという思いが強すぎるとドイツみたいに国内に混乱を招くし、自国のことばかり考えると東欧のように難民を排除してしまう。このバランスはとても難しいと感じた。そして、私たち日本はほとんど難民を受け入れていない。けど、資金面では多額の難民支援をしている。これは自国優先と人道主義のバランスをとった結果なんじゃないかと感じている。けど、私はこの学びを通して、バランスを保ちながらも、もう少し多く難民を受け入れていくことが必要だと考えている。

２　本単元で育成する資質・能力

知　識 技　能	・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。 ・①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。	○ヨーロッパ州における人や資源、財などの不均等な分布、宗教・言語などそれぞれの国家が持つ固有性を理解することができる。
思　考　力 判　断　力 表　現　力 等	・①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。	○ヨーロッパ州の難民問題において、自国の地理的特色（ＧＤＰや人口）、ヨーロッパ州全体の地域的特色（豊かさや人口、難民申請の不均衡な広がり）を踏まえて、ダブリン規定の是非について、考察し、自分の立場とその理由を表現することができる。
学びに向かう力 人間性 等	・日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。	○地域的特色を踏まえたダブリン規定の是非や難民の公平な配分についての議論や考察を通して、「自国優先」と「人道主義」の視点から現在の日本のあり方を捉え直すことができる。

３　単元構成（全７時間）

時間	学習課題（中心の問い） と ◆学習内容
1	ヨーロッパ州にはどんな国があるの？ ◆担当する国について調べ、調べた結果を交流する活動を通して、自国の固有性や他国との大まかな共通点や差異に気づく。
2	ヨーロッパ州にはどんな共通点・相違点があるの？ ◆宗教や民族の分布図を作成することで、ヨーロッパ州における共通性と多様性を理解する。また、戦争が長い間多発したヨーロッパ州において、ＥＵが作られた目的やＥＵの掲げる理念を理解する。
3	域内が１つの国のようになると何ができるの？ ◆域内統合によって、どのようなメリットが生まれるのかを考察する。また、それらのメリットを成り立たせているのがシェンゲン協定であることを理解する。
4	人口流出問題！どうする？シェンゲン協定 ◆シェンゲン協定の是非をその国の立場やメリット・デメリットを踏まえて語り合う。
5	なぜ世界はヨーロッパを非難したのか？ ◆１人のシリア少年が亡くなった写真が、なぜ世界中からヨーロッパを非難する声につながったのかを考える中で、シリア難民とヨーロッパが抱える難民問題に出

	会う。
6	なぜヨーロッパの国々は難民の受け入れを拒んだのか？ ◆ヨーロッパの国が難民を追い払った理由の一つとしてダブリン規約があることを知り、単元を通した資料に基づいてダブリン規約の是非について考える。
7	ダブリン規約を続けるべき？なくすべき？ ◆ダブリン規約の是非について資料に基づいて考えを語り合う。難民の公平な配分を考察することを通して、日本のあり方を捉え直す。

４　本単元で表出した生徒の「ものがたり」の分析

（１）　題材に対する「ものがたり」の変容について

①　自己と題材に対する変容の割合

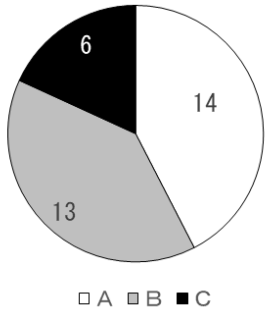
単元後の記述をＡ～Ｃに分類し、自己と題材に対する「ものがたり」が変容、情意が働いている生徒の割合を数量的に分析した。右図は、その結果である。

Ａ：題材に対する変容が見られ、社会的自己（日本や今ここに生きる私）を捉え直した語りが見られる

Ｂ：題材の変容が見られ、学びを自分の言葉で意味づけ・価値づけしている（ただし社会的自己の捉え直しは弱い）

Ｃ：題材の変容が見られるが「知った」、「分かった」にとどまっている

生徒の「ものがたり」の分析結果（Ｎ＝33）



②　その具体（▬▬は情意が働いている部分、▬▬は社会的自己の捉え直しの部分）

Ａ　題材に対する変容が見られ、社会的自己を捉え直した語りが見られると判断した例（Ｏ女）

私の国は「フランス共和国」だったのですが、「アイスランド」が良かったです。議論する上で、その国のことを良く知っていた方が良いと思うからです。「フランス」はかなり大国で、歴史と文化もありますが、「ドイツ」の人がうるさかったです。農業国なんで GDP が少し少ないのは仕方ないですよね。あと大統領が嫌いです。

今まで、小国の文化はすてきだなと思っていても、政治的なところにあまり目を向けてなかったので、楽しかったです。「EU」で、そういう国の多様性も守られていて、良いなと思いました。

ただ、議論の前に、もっと自国の現状を知れたら良かったと思います。

フランスという立場でのこだわり

シェンゲン協定はすばらしいです。格差はありつつも、EU 内に、経済効果をもたらすことができると思うからです。たしかに、このまま続けると、さらに格差が広まってしまうと思います。ギリシャやフィンランドの修正案が良いとは思います。ただ、今のシェンゲン協定で、良い思いをしている、私「フランス」や「ドイツ」などは、今の形で続けてほしいと思います。逆に、ブルガリアやモルドバなどシェンゲン協定によって不利益を被っている国は、自国に有利なように、変えたがると思います。だから、どうしても「フランス」は、お金を出さないといけないのですね。仲良くしてくれる国（農作物を輸入してくれる国）には、支援してあげても良いかなあ。

合併案は、論外ですよね。え、まじ、国をなんだと思ってんだ。

他者の考えに対する強い否定

文化を尊重した結果、経済的に破たんしてしまうのも、大変だと思います。EU としてまとまって行動するのは、大変だと思っていたのですが、意見をまとめるのでさえも、大変でおどろきました。議論

多様性を尊重しながら統合していくことの難しさの実感

中に、お金の取り合いが起こりそうですね。全てフランスが決めてさし上げましょう。じょう談ですが お金に関しては絶対的な何かが必要だと思いました。そしてそのルールは誰が決めるのでしょう。そうですよね。EU加盟国全てですよね。そうですよね意見合いませんよね。ということは全ての国が納得しないといけないわけです。文化や産業の違いが意見のへだたりを大きくしているような気がします。議論を通して「多様性の中の統合」がどれだけ難しいのかを感じました。「なぜ、もっと早くEUのようなものをつくらなかったのか」という意見がありましたが「多様性」が多少は認められてきている近年でも、排他的な風潮があるのに、戦争中に「相手のことも尊重する」そしきを作るのは、とても難しかったのだと思います。難しいとは思いますが、シェンゲン協定含めEUの決まりごとなどを、もっと改善して、世界に「多様性の中の統合」を広めていくことができるそしきになってほしいと思います。

5時間目の授業の後、友だちに「ヨーロッパ嫌いになったわ」と言われました。ですが、私は、ヨーロッパではなく、自分に落胆しました。2015年のアイラン君の写真を、実は、私も見ていたのです。まだ小さかったので仕方ありませんが、わりと近年にはシリア内戦についても、ニュースで見たと思います。そのことを覚えていなかったこと、ニュースで見なくなってから関心を失ったことに、悔しさを覚えました。私は基本テレビでは、ニュース番組しか見ません。朝の6時からのニュースと、夕方7時からのニュースです。夕方の方のニュースは、政治に関してや、国際的な話題もとり上げられます。だから私は割とそういった情報には詳しいと思っていました。ですが、実際に地理で学んだときに、思っていたよりも、覚えていなかったことに、おどろきました。その時、その人が最も関心のあることを放送しないとニュースは見てもらえませんが、そういう話題ばかりに目を取られることも、あまり良くないと思いました。他人事ではなく、実際に起こっていることとして、話題に目を向け、学んでいくことが、大切だと思います。

私は、ヨーロッパをそこまで、悪いとは思いませんでしたが、クラスのほとんどの人は、何故そんなにヨーロッパを非難するのでしょうか。7時間目終わった後まで、嫌い、というんでいましたが、「私たちも押しつけがましいしてたよね…」と思いました。ヨーロッパも、世界中から非難されたからとはいえ、受け入れている国もあるんだから、評価してあげてほしいです。アメリカの元大統領の方が、非道いと思います。まじあいつは、意味分かんないです。フランスは農作物たくさん採れるし、広いので、もっと難民を受け入れる（シュミレーションで）ことになるのかな、と思っていたのですが、あまり変化してなくて、おどろきました。むしろ、国境そいの国の方が、負担が増えていて、「こいつらぜったいドイツに押しつけてるだろ」と思ってしまいました。しかし、今の現状でさえ、かなり厳しいのだとしたら、そもそもの、難民数自体が、異常なのだと思いました。

他者の考えへの共感

私は、感動しました。イタリアさんに感動しました。「戦争を止めさせよう」、この言葉に、感動しました。自国の利益ではなく、平和を求めると。できるかどうかは置いておいて、感動しました。難民のことを第一に考えた、とても、すばらしい意見だと思いました。思っていますよ？、できるかは、置いといて。つまりこの意見は、難民受け入れに税金を使うか、戦争を止めるために、軍にお金を出す、つまり、戦争に税金を使うのか、だと思います。おそらく、どちらか、と問われれば、難民に使いたい国民が多いのではないでしょうか。アメリカがアフガニスタンへの支援を止めたように、この先、何年続くのかも分からない戦争に、お金をかけたいなんて、ほとんどいないと思います。確かに、戦争を止めることは、最優先で、進めるべきことだと思います。ですが、難民を受け入れるだけで手いっぱいの国々の国民が、果たして、戦争のために、お金を使うことに協力してくれるのでしょうか。

他者の考えと自己の考えの問い直し

ギリシャさんが言いました。「将来お金を返してもらうのは？」と。私は思いました。「私だったら絶対に返さないな」。もし国ぐるみでお金を返してもらうのなら、条例を作れば良いのかもしれませんが、個人に返してもらうのは、不可能ではないでしょうか。父が「人質をとったら…、いや、無理やな」と言っていました。理由は、「生きていくためのお金を他人に使うか？」らしいです。戦争が起こっている時点で、そんな余裕はないと分かっているのですが、私の父は、や

ばり、私の父でした。ただ、私も、ギリシャさんは「お金は返してないと思います」と言っているのです。ただ、やっぱり現実的にお金を手に入れないと、人道も何もないので、お金は大切だと思いました。また、この意見は、中国の一帯一路政策的なやつで、お金をかしまくって、返せなくさせている政策みたいだなと、一しゅん思ったのですが、とてもやさしい案でした。

私が、ダブリン規約に関する話し合いの中で最も良いと思った意見は、ドイツの「お金を出してあげるから、受け入れて神」という意見です。分配案と上手く組み合わせれば、全員が納得しやすいのではないかと考えました。この案なら、GDPが少なくて、面積が大きい国も受け入れやすいのではないでしょうか。

どんなときも立場が違う相手というのは存在しますが、その相手のことも考えて行動することが、大切だと思いました。

ニュースで見ていると、他人事のように感じたこと、当たり前だと思っていた議論など、実際に自分たちで行うことで、様々な学びを得られた。たとえば、難民に関する問題で、難民を押しつけ合わないための話し合いだったはずが、いつのまにか、難民の押しつけ合いになっていたり、難民たちが、人間らしく生活するために話し合っていたはずが、いつのまにか難民を物のようにあつかっていたり。振り返りやレポートでも書いてきたが、現実的に話し合いを進めることは大切だが、その前に、相手のこと、相手の文化や利益などを尊重し合うことがもっと大切なのではないかと、そう思うようになった。もちろん、それができれば、戦争なんて起きていないだろう。でも、私たちの話し合いでは、自国の利益より難民を助けることを重視した国がたくさんあった。実際の大統領が、そんなことをするのは不可能だろうが、こんな風に話し合えたら、問題は解決するのでは…？、と感じた。私は地政学など、政治的な話が好きな方なので、ついつい自国の利益に走ってしまっていたが、他の人の意見を聞いて、少し変われた気がした。私は、「実際には無理だな」とか「絶対XX大統領反対するな」と、否定的に見てしまっていましたが、物事は、0か100かではないので、やはり、どの国も納得できる形に修正していってほしいな、と思った。

なんだかんだ言ってきましたが、クラスマッチでもこのことで話し合いたいくらい、楽しかったです。あとフランスには悪口を言っていましたが、文化も食べ物も大好きです。とりあえずめちゃくちゃ楽しかったです。日本について書くの忘れてました。日本は少し排他的すぎると思うので、もっとオープンにいろいろ受け入れた方が良いと思います。

とりあえず、クラスマッチこの話し合いの続きにしませんか？

B：題材の変容が見られ、学びを自分の言葉で意味づけ・価値づけしている（S女）

私は最初、ドイツやイタリアなど、代表的な国がよかった。最初、私の国「ルーマニア」が決まった時、本当は何かいやだな、と思った。横でよろこんでいた[redacted]ドイツ）さんがうらやましくなり、少しくやしかった。調べてみると、ルーマニアと似た国期があり、探すのがしんどかった。やっと見つけたルーマニアについてのサイトを開くと、びっくりした。GDPや人口も多く、のどかな風景や教会、中世の町なみがあり、人々は旅人にとても優しく、陽気な人がら。おいしい食べ物もあって、文句なしの国だった。いくら面積が広くて代表的な国でも、中身がよくなければ意味など無い。いくら小さい国で目立たない国でも、中身がよければすごくいい国なんだということを、ルーマニアは教えてくれた。だから、私はルーマニアが当たって本当によかったんだと後から思うことができた。きっと、ドイツなんて当たっても、ありきたりで知っていることだけを調べ

単元の始めと学びを終えたあとのルーマニアに対する愛着の変容

シェンゲン協定下において人口が減少している国としての怒り

ることになったんだと思う。知らないところの良さを知るってこんなに楽しいことなんだ！と思えた。そして2時間目、ヨーロッパはヨーロッパ。言葉も同じで宗教も同じと思っていた私にとって、民族も宗教もそれぞれちがうということはおどろくべき事だった。また、ヨーロッパといえば、貴族が集まっていて、たくさんの食料があって、戦争もなくて、治安がいい国だと思っていた。でも、ボロボロになるまで戦争をして、それがいつまでたっても意味がないと気づかない国だったと知って、ヨーロッパのがいねんが私の中で崩れ落ちた。ヨレ作るのおそすぎでしょう！と腹がたった。そして3時間目、「シェンゲン協定」という暗号のような文字が並ぶのを見て、「何これ」と思った。すべてのEU市民がEU国の数々を自由に行き来できるなんて、いいなーと思った。全部の国に自由に行き来できるなんて、こんないいことはないと思った。この時は、まだ、私はルーマニアが大好きになっていたので、ルーマニアに住みつくことにした。でも、シェンゲン協定は利用したい。だから近くのセルビアとかに遊んでいったりすることもしたいなーと思いつつ、それが実現の難しいことだと考えて、肩をおとしたりもした。だからこそ、いつか外国に旅行へ行く時なんかには、ルーマニアをえらぼうと心に決めた。ここまでは、私の心はお花畑だった。ここまでは…。4時間目から、私の心は狂い始める。今まで、誰にとっても平等で、「良い協定」と考えてきたシェンゲン協定、そしてEUの本性を知ったからだ。先生がスクリーンで見せてくれた、「ヨレは、ルーマニアが育てた医師をうばいとっていく」という言葉が、ものすごく頭に残った。でも、ヨレだって何らかの形でお金が必要になるはず。だから、私はシェンゲン協定を「変える」という意見にした。席替えを思い出した。いつも、誰かしらは必ず、がまんする人は出てくる。だから、次の時には「この前はありがとう、好きな席を選んでいいよ」といって、欲望とがまんをイコールにする。だから、私はお互いが少しがまんして少し納得いく結論を出した。つもりだったのだが、大きい国（主にハンガリーとドイツ）が怒りを通りこして呆れるような意見を口にした。弱い国は弱い国で合体すればいいじゃん（ハンガリー）、格差があるのは自分たちのせいやん、自分には関係ない（ドイツ）。また、協定なくしちゃうと散った国民たちが帰ってこれなくなるよ？と煽られた。もうかった国が他に利益をわたせばいいという心やさしいベルギーさんの意見もある中で、ドイツやハンガリーの意見を今でもふと思い出し、怒りに震える。この時点で私は、ヨーロッパのやばさに、うすうす感づいていたのかもしれない。そしておかえた5時間目、私の心の半分が崩れおちる時間となるのだった。一発目はアイランの画像だった。生きていたころのアイランは、本当にかわいかった。無邪気な笑顔と小さい手で、大きなぬいぐるみをだいたその姿は、天使以外の何者でもなかった。そんなアイランが傷一つない小さなきれいな体で、冷たい砂浜の上でしくなっているのを見た時、嫌というほど胸がしめつけられる気持ちがした。同じようなんたちが何千、いや、何千万というほど命を落としている。そしてその家族の人の事を考えると、自分も大切な人のことを思い出して、大切な人が死ぬ苦しさ、悲しさはきっと、ものすごいものなんだろうと思った。だからこそ、人々を殺した殺人鬼のことを知りたいと思った。その殺人鬼がヨーロッパだと聞いた時、耳を疑った。えぇ？

難民が置かれている状況への共感

ヨーロッパに対する怒り

ヨーロッパって"正義"とか"平和"とかをかかげてる国じゃなかったっけ？本気でそう思って混乱した。それが本当の事だと知った時、絶望と怒りがわいてきた。「うわべだけなんだ。」これがヨーロッパの印象をぶっぱなす2発目だった。そして、動画を見た。ヨーロッパに住みついた、心の汚い人間共が、必死に人生を生きて、生きて、生きぬいてきた難民に、帰れ、だの、入ってくるな、だのとの暴言を浴びせ、船をこすりつけたりしてぼうがいしていた。先生は、ヨーロッパにも理由があるから、今はヨーロッパを悪者と言わないであげてと言っていた。けれど、私はそう思えなかった。もし、どうしても難民をうけ入れられないのなら、テレビの前で土下座でもしてあやまるべきだと思った。方法が方法なので、ヨーロッパを悪者と思わざるをえなくなってしまった。私はヨーロッパを絶対好きない！そう心にちかった。怒りのあまり4.5時間目のふり返りを乱雑に書いてしまったこと、あやまっておきます。先生、大変申し訳ございませんでした。さて、6時間、私の心が荒らされまくることになる。ヨーロッパが難民をそこまでしてでもうけ入れないのには、それほど大きな原因があるのだろう。そう考えていた。だがどうだろう。ヨーロッパは治安の悪化、イスラム教の流入、土地、資金などというありきたりな答えしか帰ってこなかったのだ。それを聞いて思ったことが1つ。「そんなのトルコだっていっしょじゃん」何千人、何万人もの命をうばっていた行為は、そんな言葉で終わらされるんだ。あまりにも腹がたって、ヨーロッパなんて海にしずんでしまえ、と思ってしまった。（ルーマニアの人たち、ごめんなさい）世界中にひはんが殺とうしたのにも納得がいった。そして、もう1つ腹がたったことがある。それは、ヨーロッパが全世界にひはんされた後、ケロッと手のひらを返して、「難民、ようこそ」というプラカードをかかげ、歩いていたということである。難民にとって、それはうれしいことだったのかもしれない。でも私は、「世界にひはんされたので難民をうけ入れてあげますよ、これでいいですね」といわれているような気がして、ヨーロッパをけとばしたくなった。（スイマセン）それが6時間目の出来事。7時間目の最後の授業、研究会。その日の朝から、楽しみとドキドキと不安で心臓がバクバクいって、うるさかった。昼休み、[redacted]さんが、「私、司会したいから先生に言うことにする！」と言った時、私は[redacted]さんの度胸とやる気に感動して、おうえんのダンスをおどってあげた。（なぜか笑われた）。7時間目、授業が始まってみんなを見ていると、やはりきんちょう気味なのが伝わってきた。がんばって司会をしている[redacted]さんをかわいいーと思いながら、みんなの声に耳をかたむけていると、比較的、ドイツやハンガリーもおとなしく、最初にもどって考えるような意見も出て、そもそも、戦争をなくせばいいやん、と、ハッとさせられた。意見を言うことはなかろうと思っていたけれど、何とか発表もできて、達成感につつまれた。先生が配ってくれた、難民分けのプリントを見ると、GDP、面積、人口で分けるだけで、難民のうけ入れ数が、どーんと増えたり減ったりして、うおおーと思った。ちなみに、私の国のルーマニアは、難民申請数でいくと1545人、面積でいくと30480人で、増えすぎだあと思った。面積で考えると、人口の量よりも難民のうけ入れ量が少ないということに気づいた[redacted]（ドイツ）さんが、面積を推しまくっていたのが少しおもしろかった。しばらくすると、みんなも、本来の色を

とりもどしつつあって、うれしかった。現実のドイツはたくさんの難民をうけ入れようとしていたけれど、仮ドイツさんとのギャップがすごくておもしろかった。ダブリン規約は、なくせとまでは言わない。欲望とかまんをイコールにしたい。そう思った。そんなこんなで、私の「ヨーロッパ州の物語」は終わった。エッ!? もう1時間もたったの!? と思うほどにたのしかった。ヨーロッパをすごい! いいなー と思ったり、ふざけるな! と思ったりしていたら、本当にあっという間におわってしまった。1時間1時間がものすごくたのしくて、もう終わりか、と思うとポロッといきそうになるくらい。ヨーロッパは充実してて、たのしかった。意見がくいちがうときもあって、同感する時もあって、そんなに感情のこもった授業をうけたのはひさしぶりで、私の心もおどった。ヨーロッパを通して、私は世界とかてつ学とかにも興味をもった。次はアジアとか、そういう所あたりをやるんだろうな。楽しみだけど、ルーマニアとお別れするのはとっても悲しい。いつかは、ルーマニアに行くという将来の夢ができた。また[redacted]先生の授業は何よりもおもしろくて、日々のたのしみだったので、もうなくなるのはとてもざんねん。先生、2年生の冬、楽しみにしてます。

今回の学びは、私にとってしょうげき的なものだった。なぜなら、ヨーロッパは、やさしくて、暖かい国だと思っていたけど、かなりクレイジーでおもしろい国というのが分かったからだ。難民をうけ入れたり受け入れなかったり、人を殺したりひどいことをしたり、ヨレでギャアギャアともめたり。人や物事を単純に、たやすく信じてはいけないなと思った。けど、1つ1つの国は全然わるくなくて、私の国のルーマニアなんかは、非のうちどころのないすばらしい国だった!! ヨーロッパ全体で見れば、少しおっとするところもなくはないけど、1つ1つの国はすばらしかったから、いつか行ってみたいなと感じた。私の将来の夢は、ひこうきにのって東京へ行くことだけど、ひこうきにのってルーマニアにも行ってみたい。それが将来のゆめに変わった。また、今の日本は、お金はめちゃめちゃだしているのに、難民はうけ入れてないという、いいのか悪いのかよくわからない国なので、難民もうけ入れるようになってほしい。テロとかひこうきジャックとかされたら難民やっぱこないでーとなるけど、今のところは何にもおきていない(と思ってる)ので、難民、うけ入れていいんじゃない?? って思ってる自分がいる。(ナがつかれた)これから後にも先にも、こんなおもしろい授業はないだろう。研究授業の前日、親に今までの社会の内容や、[redacted]さんや[redacted]先生の話をしゃべりつくすくらい楽しみだった。今回、ヨーロッパ州を学習して、ヨーロッパについてのイメージが180°変わった。すべてがかんぺきな国ってないんだと思った。どんな国でも欲はあるし、戦争するし、事故だっておきるし、テロだっておきる。それにくらべて日本は、アメリカに守られてふわふわしてて、テロなんておきず、戦争はしないと断言している。これ以上安全な国ってあるんだろうか? 気候も温帯でちょうどよく、経済もはってんしていて、国民が政治を決められて。そう思うと、私の国がほこらしくなった。けど、外国にも、日本にはない、めちゃすごいリゾート地とか遊園地とかがある。今回、ヨーロッパには、みんなちがってみんないい、っていうことをおしえてもらった。安全な国、日本にすんでいる私にとって、ヨーロッパの国のボきょうは大きなしげきになった。それは怒りでもあったし、たのしさでもあった。一度も外国へ行ったことのない私にとって、ヨーロッパの景色を想像したり、情報をよんだり、画像を見たりすることは、わくわく以外何者でもなかった。本当に、本当にたのしかった。

C　題材の変容が見られるが知った、分かったにとどまっている例（Ｉ女）

私は、ヨーロッパのことについて習前は、とにかく広そうというイメージはあったけど、ヨーロッパ州に何の国があるかも知らなかったし、どんな問題があるのかも分からなかった。1時間目から、自分がどこの国か決まって、フランスになった。私は国をあまり覚えられてなかったけど、フランスは、自分の中でも知っているほうだったから嬉しかった。けど、フランスの良さや特徴も知らなかった。調べたら、面積もとても広くて、GDPもタタい、西ヨーロッパ最大の農国だったりして、良さや特徴を知ることができて、自分の国のフランスについて、詳しくなることができたと思う。ヨーロッパの中でも、宗教が違ったり言語が違うところがタタくあることを知った。EU市民として、どんな生活を送りたいかは、フランスで生活したいと思った。けど色んな国のことも知ってフランスより進んでないところもあったけど、フランスにないこともけっこうあって、正直フランスを離れるかも迷ったけど、自分の国に残ることにした。5時間目から難民のところに入って、最初は、ヨーロッパのことを全然知らなかったから、難民を、おいはらって自国に受けいれないヨーロッパに、何で受け入れなかったのか分からなかったし、アイランくんが亡くなったことで、ヨーロッパを非難していたけど、私だっても、アイランくんのチラシとかを見たらヨーロッパを非難するだろうなと思った。けど、その次の時間に、ヨーロッパが難民の受けいれをしなかった理由があることを知れた。資金・土地がたくさんかかるのは、けっこうキツいし、それが何万人もってなったら、何で難民を拒んだのかが納得できた。シェンゲン協定を続けたほうがいいか、なくしたほうが良いかの話し合いの議論をした時に、私は最初、なくしたほうがいいと思っていたけど、議論の中で、[redacted]さんが、国を合体させたらどうか、という意見があって、確かに、と思っていたけど、色んな人の意見を聞いていると、文化や宗教、言語も違うから、合体した国の中で争いがおこるんじゃないかなと思って、その意見に反対になりそうだったけど、合体することでの良さも[redacted]さんが言っていたから、話し合いの最後は、自分がどっちの立場にいるのかが分からなくなった。その後にあった、ダブリン規約の話し合いでは、続けていくべきだと思っていたけど、国によっては、なくしたほうが良い国もあったから、国によって意見や理由が変わってくるなと

思った。最後は、日本の現状についてで、去年のグラフを見たら、日本は、何千人からきていた申請のうち何百人しか受けいれてなかったけど、UNHCRでは、世界TOP3に入るぐらい、お金をだしてたから、私達の知らないところで、難民のために色々していることを知った。ヨーロッパについて学んで、ヨーロッパにも、色んな問題があって、他の国と話し合いが行われていたりすることが分かった。学習前は、ヨーロッパには特に何も起こってなさそうと思っていたけど、今は、違くて、国ごとに問題もあって、解決させるために議論や話し合いが行われていて、大変ということを、この学習を通して分かった。

今回の学びは、私にとって、ヨーロッパの国々の問題などへの自分の意見をまとめられるものだった。なぜなら、ヨーロッパに何の国があるのかも知らなかった私が、国だけじゃなくて国の問題も知れて、日本だけでなく他の国々について深く考えることができた学習だったからだ。他の国のことを、こんなに深くまで考えれるのは地理ぐらいで、今回の単元では、ヨーロッパ州のことを知れただけでなく、難民や協定、規約のことについても、くわしくなれた。この単元は今までの地理で、私は一番興味がわいて、色々おもしろかった。学習前よりも世界に目を向けれるようになったと思う。ヨーロッパ州で色々進んでることを知ったから日本でももっと良くなるために進んでいったらいいなと思う。

（２）　単元における生徒の実際

①　分析の視点

［視点１］単元が進む中で、担当している国として考える（当事者性の高まり）があるか

［視点２］難民の受け入れ問題において、真剣に考え、葛藤しているかどうか

②　分析の対象

抽出生徒Ａ（Ｏ女）：社会科についてのアンケート（４月）では、地理はまあまあ好きだが覚えることが多くて嫌になると答えている。地政学に興味を持っており、ヨーロッパ州に対する知識は他の子よりも多く、学習前アンケートでも各国の特徴を挙げて説明している。（担当国：フランス）

抽出生徒Ｂ（Ｓ女）：社会科についてのアンケート（４月）では、歴史は好きだが地理はあまり興味がないと答えている。授業内では自分の考えを積極的に表出はしないが、ログには丁寧に振り返ることができている。学習前アンケートでは「豊かなイメージ。治安が良く、物事が発展している」と答えている。（担当国：ルーマニア）

抽出生徒Ｃ（Ｉ女）：社会科についてのアンケート（４月）では、新しい国などが出てきて、覚えにくいからあまり好きではないと答えている。学習前アンケートでは「国がたくさん集まっていそう」と答え、他の２人と比べて、社会科の知識はあまりない。（担当国：フランス）

③　授業の展開

第１時：ヨーロッパ州にはどんな国があるの？

ヨーロッパ州の導入として、自分の持つヨーロッパ州のイメージや知っている国を全員で挙げていった。有名な国しか生徒から挙がらないため、他にもこんなに国があると国旗を紹介し、50 か国のうち教師が抽出した 30 か国（抽出基準は①ＥＵ加盟国②シェンゲン協定批准国③ダブリン規約批准国のいずれかに該当する国）のくじを引かせて、単元を通しての担当してもらう国を割り振った。自分が暮らしている国・地域に比べて、他国や他地域に対する生徒の当事者性はどうしても低くなる傾向にある。そのため、自分が担当する国を調べたり、単元の途中で出会う社会的な問題について、その国として選択し考え、語り合ったりすることで、次第に当事者性が高まるのではないかと考えたためである。生徒はタブレットや地図帳を使って、担当国のＧＤＰ・人口・面積・宗教・あいさつや自分たちが調べたい項目をまとめていった。以下は、第１時を終えた抽出生徒の振り返りである。

【１時間目を終えた抽出生徒Ａの振り返り】

私の国はフランス共和国です。ヨーロッパはヘロリアや地の学ボーイズとかのマンガで、読んで、ハマったりハマっていなかったりしているので楽しみです。フランスは割と大きい方の国で、歴史や文化も好きなのですが、現首相、大統領があまり好きでないので、がんばります。あまり仲良しの国ではないイメージで、自国愛がめちゃありそうだなっという印象を持っています。

【１時間目を終えた抽出生徒Ｂの振り返り】

ヨーロッパで指定された国を調べていたら私の国そっくりのアジア州の国を見つけびっくりした。小さいのにGDPが大きかったり、大きいのにGDPが小さかったりして、見ていてたのしかった。少し有名な国を期待してたのに、小さい国があたったなぁーと思ったけど、いざ調べてみたら、人はやさしいしGDPも高かったし有名なものもたくさんあった。ルーマリア、これからよろしくね。

【１時間目を終えた抽出生徒Ｃの振り返り】

面積、人口、GDPは、ヨーロッパの中でフランスは高いほうだけど、そこだけで上とか下とかじゃなくて国ごとの特徴とかを知りあって、色ろんな国のことを知ったり議論し合ったりしたいです。

抽出生徒Ａは既有知識をある程度持っており、担当国への良いイメージをあまり持っていないことがわかる。抽出生徒Ｂは担当する国が自分の期待していた国とちがって、少し落胆している部分も見られるが、調べる活動を通して少し愛着を持つようになっている。抽出生徒Ｃは他の国のことを知りたいという意欲がやや見られる。

第２時：ヨーロッパ州にはどんな共通点・相違点があるの？

今回はみんなが当たった国の特徴やGDP、人口や面積を知ることができた。やっぱりドイツは強かった。また、自分の国ポルトガルについて知ることができた。次は今回みんなで調べた国の特徴について語りたい。

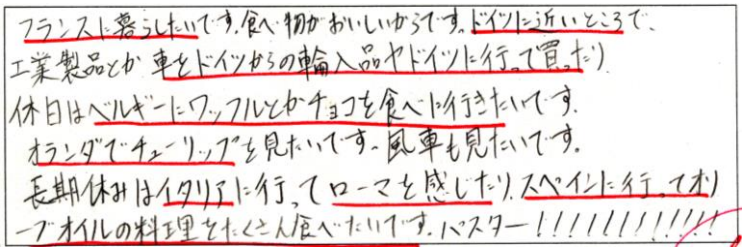
前時の振り返りに、抽出生徒Ｃや上記のような「みんなで調べた国の特徴について紹介し合いたい」というものが多かったため、お互いの国をより紹介する場面を設けた。「〇〇とあいさつが似ていた」「△△とは隣の国だけど、宗教の割合がまったくちがう」「あの国よりＧＤＰが多い！」などいろんな気づきが見られた。そこから、「どこの国と似ており、どこの国と違うの

か」と問い、自分たちが調べた項目に基づき、民族や宗教の分布図を作成していった。地図にまとめることでヨーロッパ州におけるおおまかな共通性と多様性を認識したあと、「これだけ多様性がある国々が、なぜＥＵという１つの組織になったのか」という問いに対して、マーストリヒト条約の内容やヨーロッパ州の歴史（戦争が多発した歴史）を踏まえて理解していった。

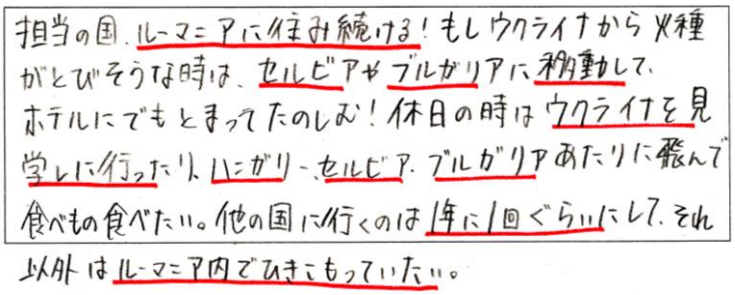
第３時：域内が１つの国のようになると何ができるの？

ＥＵとして統合することで、どのようなメリットがあるかを教科書やタブレットを使って各自が調べる活動を行った。各自が調べたことを発表する中で、自由に移動・移住できる生活について「うらやましい」という声が多く聞かれた。すべてのＥＵ市民が、自国を出て他の加盟国に自由に移動し、またどこでも居住することができることを取り決めているのがシェンゲン協定であることを確認し、「あなたはＥＵ市民としてどんな生活を送りたいか」という視点で振り返りを書かせた。

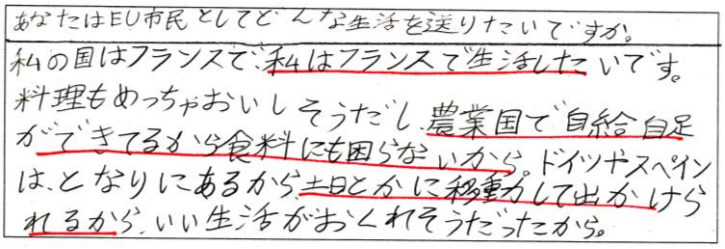
【３時間目を終えた抽出生徒Ａの振り返り】


フランスに暮らしたいです。食べ物がおいしいからです。ドイツに近いところで、
工業製品とか車をドイツからの輸入品やドイツに行って買ったり
休日はベルギーにワッフルとかチョコを食べに行きたいです。
オランダでチューリップを見たいです。風車も見たいです。
長期休みはイタリアに行ってローマを感じたり、スペインに行ってオリ
ーブオイルの料理をたくさん食べたいです。ハスター!!!!!!!!!!!!

【３時間目を終えた抽出生徒Ｂの振り返り】


担当の国、ルーマニアに住み続ける！もしウクライナから難民
がとびそうな時は、セルビアやブルガリアに移動して、
ホテルにでもとまってたのしむ！休日の時はウクライナを見
学しに行ったり、ハンガリー、セルビア、ブルガリアあたりに飛んで
食べもの食べたい。他の国に行くのは1年に1回ぐらいにして、それ
以外はルーマニア内でひきこもっていたい。

【３時間目を終えた抽出生徒Ｃの振り返り】


あなたはEU市民としてどんな生活を送りたいですか。
私の国はフランスで、私はフランスで生活したいです。
料理もめっちゃおいしそうだし、農業国で自給自足
ができてるから食料にも困らないから。ドイツやスペイン
は、となりにあるから土日とかに移動して出かけら
れるから、いい生活がおくれそうだったから。

抽出生徒３名ともシェンゲン協定を利用して、休日に移動することは考えているが、自国に留まって移住することは考えていない。その理由付けとしては、第１時で各々が調べた内容や第２時で近隣諸国と紹介し合った内容を踏まえている。

一方で、クラス全体としては、35人中14名が自国を離れて、ドイツなど大きな国へ移住すると答えている。

また、２名の生徒がシェンゲン協定によって、「自国の人口が減りそう」と人口流出を危惧している振り返りを記述しており、シェンゲン協定に対する認識のズレが見られた。

第４時：人口流出問題！どうする？シェンゲン協定

前回の振り返りを紹介する中で、人口流出を危惧している生徒の振り返りを紹介した。生徒からは「そんなことある？」「うちは大丈夫そう」「私の国はヤバいかも」といったさまざま反応が見られ、1997年～2021年におけるヨーロッパ各国の人口増減率の資料を配付した。喜びと悲しみの声が挙がる中で、実際に人口流出によって深刻な影響が出ているブルガリアとルーマニアの国民のインタビュー動画を流した。生徒の中から、「シェンゲン協定をやめるべきでは？」という声が出たため、ここで第１回ＥＵ会議として、シェンゲン協定の是非について話し合う場面を設けた。以下は、抽出生徒３名の立場と理由付け、抽出生徒ＢがＥＵ会議で出た意見をまとめたもの、ＥＵ会議全体での各国の立場である。

【抽出生徒Ａ：人口増加率 113%のフランスの立場】

＊フランスとしては、シェンゲン協定をなくさなくても良いと思います。
ただEU全体を見ると一部変うしてもよいと思います。
→EU内で、経済が活発になると、シェンゲン協定のおかげで、その効果が、全ての国にもたらされるから。
（フランスとしては、負担金が大きい分、見返りがほしいので）

【抽出生徒Ｂ：人口増加率 84.8%のルーマニアの立場】

シェンゲン協定　なくすべき？ or 続けるべき？　変えるべき

シェンゲン協定はもともと、お互いの経済を発展させるためにできたもの。それが今では、シェンゲン協定が経済格差がなかっている。ただ、シェンゲン協定によって得をしている国もある。私の国、ルーマニアではなくしてほしいと思うけれど、EUで考えれば利益もいる。それぞれが対等で多くの利益が得られるように変えていきたい。

【抽出生徒Ｃ：人口増加率 113%のフランスの立場】

シェンゲン協定はなくしたほうがいいと思います。
色んな国が移動したら一気に人口が減るところがあって、人口がかたよりそうだから。

【ＥＵ会議全体での立場】

【抽出生徒ＢがＥＵ会議で出た意見をまとめたもの】

続けるべき

（フランス）
一部の国の利益が全体へ
→格差がなくなる。

（ハンガリー）
人が減ったら合体すればいんじゃね

（ドイツ）
協定をなくすと帰ってこれないよ？
格差は自分の国のせい

（ベルギー）
もうかった国が他国に金をわたす

自国優先の考えが対立構造を強めた

なくすべき

（フィンランド）
「どこでも移動する」
→自国で仕事

第２時で押さえたＥＵの理念が理由付けとなる

（ギリシャ）
修正がなくす
→EUの目的「多様性の中の統合」からそれてる
→戦争へと発展へ

（エストニア）
より格差が拡大
自国の文化の消失

（スイス）
EUって全ての国を発展させるのが目的
→EUを作った意味

人口が増加している西側諸国を中心に「続けるべき」が 13 か国、人口が減少している東側諸国を中心に「なくすべき」が 13 か国、「修正案」を挙げてきたのが４か国、「悩む」国が５か国となった。会議ででた内容として、「なくすべき」側は、第２時で見たマーストリヒト条約におけるＥＵの理念（人道主義の面）を掲げている。一方で、「続けるべき」側も利益を分配するなどの考えを持っており、自国優先ばかりではないが、ハンガリーやドイツの発言によって、対立構造が強まり会議は紛糾する形で終わることとなった。以下は、会議を終えての抽出生徒の振り返りである。

【４時間目を終えた抽出生徒Ａの振り返り】

自国の文化を尊重することは、大切にしていきたいのですが、産業自体も文化で、歴史だと思うので、全てのことを尊重するのは、とても難しいと思いました。私はフランスなので、EUの負担額が多く、国が大きいため、国民からの支持を得るためにも、シェンゲン協定でなくのんが移住するなどフランスはすばらしい国ですよ～、と言いたいので、利益、支持を得るためにも、絶対にこの状態で続けさせたいです。きれいごとを言えば、大国がお金を分配するべきなのですが、嫌じゃないですか。せっかくかせいだお金を自国に使えないのは、絶対に嫌です。今日の自分の意見は、完全に自国の利益を守るため少しぼう論だったかな、と思います。

シェンゲン協定がなくなるのは嫌ですが、合べいは、もっと嫌です。だって第二次大戦でフルボッこされてますし、宗教、ちがいますよね?! 大国同士が、お金の取り合いをしないわけないです。大国がけんかしたら、小国は困ると思います。

だからシェンゲン協定は続けましょう! 合べいは、マジでやめましょう!

ここまでは、フランスとしての意見なのですが、私個人としては、バルト三国やルーマニア、ブルガリア、モルドバなどの小国の文化が好きなので、ケチらずに金を出したいです。文化めっちゃ保護したいです。くそ、私はどうすればいいんだー。誰か良い案出してくれないかな。

【４時間目を終えた抽出生徒Ｂの振り返り】

意見を見ていると、主に大きい国がつづけるべき、小さい国がなくすべきの意見が多いと思った。私にとって、一番おさまる方法は、大きいのが小さいのに利益を分配する方法だと思った。でもそれが今実現していないのは、結局自分の国のことしか考えていないからだと思う。EUでは加盟国の中の統合をかかげているのに、でも結局はEUを利用して金をもらうだけ。小さい国がそんをしているのでは。って[redacted]さんの意見を聞いて思いました。答えはEU内でたくさんでていると思うのに、それが実行できていないのは、やっぱりそれぞれが自分の国のことを考えているから。と思った。続けるにしろ変えるにしろなくすにしろ、どれかの国に何らかのそんは発生する。それがすべてなくなるような方法、はないんだろうか。

【４時間目を終えた抽出生徒Ｃの振り返り】

合体するのはいいと思うところと、反対のところはあるけど、少ないところで合体していっても、月給は増えるけど、文化も違うし、違うところはもっとあるし、その間で争いがはじまるので、反対かもしれないです。協定を続けても今の差は(言語も)うまらないし、なくしても差がひらいていくだけだから、どっちに賛成なのかはむずかしいです。

生徒の語りからは、第４時がきっかけで当事者性を高めていることがわかる。抽出生徒Ａは、フランスという立場を意識して、自国優先の考えを述べているが、最後にはフランスの立場と自己の考えに乖離が生まれ悩んでいる様子が伺える。抽出生徒Ｂはドイツの発言によって、一部の国の自国主義に対する憤りが生まれている。一方で、抽出生徒Ｃは最初の立場を決めた場面でも、理由付けの弱さが伺え、なんとなく「なくすべき」を選択している。振り返りでは悩んではいるが、「〇〇という国として考える」という面では他の２人より弱いことがわかる。

第５時：なぜ世界はヨーロッパを非難したのか？

第５時からはヨーロッパが抱える難民問題について入っていく。前時で、ヨーロッパ内の人の移動について対立状態となっていた生徒たちが、次は域外からの難民の移動に対して、協働して解決策を模索していくものである。しかし、ヨーロッパの立場のまま難民問題に出会うと、難民の押しつけ合いのみに発展するおそれがあり、難民に対して共感的な姿勢も不可欠である

と考えた。そこで、第５時では、シリアの幼い少年の悲劇的な写真とそれを報じヨーロッパの姿勢を非難している記事から「なぜヨーロッパが非難されるの？」という生徒の素朴な疑問を生み出し、シリア難民が発生した理由、実際の難民の苦しい生活、難民たちがヨーロッパを目指す姿、その難民たちをギリシャやハンガリーが難民を追い返す姿などを見ることで、「難民を助けるべきだ」「ヨーロッパの姿勢は酷い」という生徒の率直な思い（人道主義的な立場）が引き出されると考えた。以下は、第５時を終えての抽出生徒の振り返りである。

【５時間目を終えた抽出生徒Ａの振り返り】

移民や難民の受け入れに関してもめている、というのは知っていましたが、具体的な数字や映像を見ると、とてもショックでした。私は、受け入れが難しいのは確かだと思いますが、ヨーロッパも地中海での死亡事故などを無視しているところを見ると、少し排他的すぎる気がします。ギリシャも、他と比べると、ゆうふくなわけではないので難しいのも分かりますが、国の政府が受け入れを拒否するのならまだしも、住人までもが、受け入れを拒否しているのは少し違和感がありました。税金を使って、他の国の人を支援するのが嫌なのでしょうか？
また、世界中がヨーロッパを非難したと言っても、アメリカもメキシコ(?)からの移民を受け付けていないと大統領がいましたし、日本も移民(?)難民(?)を受け入れる制度が不十分だと聞きます。
ヨーロッパの事情もしっかり知りたいです。

【５時間目を終えた抽出生徒Ｂの振り返り】

難民がかわいそうと思った。いくら事情があるにせよ、必死でヨーロッパにたどりついた人たちに、「帰れ」はひどすぎると思った。移民を受け入れないのなら、自分たちで争いをしずめてほしい。シェンゲン協定みたいな条約じゃなく、すべてが私のおさまるように移民を受けられるような協定をむすんでほしい。事情があれば人を殺すのはよくはない。暴言を吐いてもいいわけない。ヨーロッパを悪者にするなと言われても、悪者にしたてあげる要素が高すぎる。ヨーロッパは正義というモットーがあるけど、そんな主義をかかげているなら、ヨーロッパ市民が船をこすったり、帰れと言ったりするはずがない。おい帰すならおい帰すで何か方法はあるはずなのに。私がもし難民なら、そんな国はえらばない。たくさんの移民をうけ入れるトルコがいい。

【５時間目を終えた抽出生徒Ｃの振り返り】

なんでヨーロッパを非難したのかが分かりました。ヨーロッパは難民をどうして受けいれたくないのかが分からない。アイランくんのも、ヨーロッパが悪いわけじゃないのは分かるけど、他の難民の人達が船を防害されてるのを見ると、ヨーロッパが悪く感じます。けどヨーロッパが思うことと、他の国の思いは、考え方によって違うと思うから、ヨーロッパの事情を知りたいです。

どの抽出生徒も難民を助けるべきだという人道主義的な面を見せているが、抽出生徒Ａと抽出生徒Ｃは比較的冷静に難民問題を見ていることがわかる。また、「なぜ難民の受け入れにヨーロッパが積極的でないのかの理由を知りたい」という知的な興味関心の方が高い。一方で、抽出生徒Ｂは２人の生徒と比べて難民への共感が強く、ヨーロッパに対する怒りが生まれていることがわかる。

第６時：なぜヨーロッパの国々は難民の受け入れを拒んだのか？

前時の振り返りでは、多くの生徒から難民に対する共感が見られた一方で、ヨーロッパの国々が難民を拒んだ理由を知りたいというものも多かった。そこで、難民受け入れにおけるデメリットを①資金面②土地③治安の悪化④異文化の流入という４つの視点から考察していった。また、ギリシャやハンガリーが難民に対して強い抵抗感を示した理由の一つにダブリン規約（難民は最初に到着した国で、難民申請手続きをし、その国は難民申請の処理を義務づけられる）に対する不公平感があることを知り、単元を通した資料に基づいてダブリン規約の是非について考えることとした。「ダブリン規約を続けるべきか、なくすべきか」という問いは、ダブリン規約を続ける立場をとると地中海沿岸国に難民申請が集中している現状が解決できず、なくす立場をとるとより豊かな国に難民申請が集中してしまうといったジレンマがあると考えたためである。以下は、抽出生徒が第６時を終えた段階での立場と理由付けである。

【抽出生徒Ａの立場と理由付け】

私は **続けていく** ・ **なくすべき** べきだと考えます。

そう判断する理由は、

・資料　2　から…受け入れたくない。あまり自国以外
（ダブリン条約がなくなれば、多くの難民が自国に来てしまうため）

・資料　5　から…人口が元々多いので、受け入れる余裕はない。

・資料　1　から…近い方が、文化の差や言語の差が少なそうだから。
（難民たちの自国に）

価値観も違う
宗教も違う、人たち、自由の利益に
ならないのなら
お金を使いたくない
フランス

そもそも
追いおいてきたのは
自分たちじゃないし、
フランス

難民受け入れは、国として当然の
ぎむだろーがよ、受け入れろよ。
自分の意見

【抽出生徒Ｂの立場と理由付け】

私は **続けていく** ・ **なくすべき** べきだと考えます。

そう判断する理由は、

・資料　2,4から…難民申請数が多い国は、面積が大きい国もあるが、小さい国もある。だから小さい国の負たんが大きすぎる。

・資料　2,5　から…GDPがとても低い国もたくさんの難民がおしよせている。続けると、ヨーロッパの国々まで弱ってしまう。

・資料　3,4,5から…ドイツ、スペイン、フランス、イタリアなどは面積も大きく、GDPも高い。小さい国の規約はなしにして、その分大きい国が難民をひきうけるべき。

【抽出生徒Ｃの立場と理由付け】

私は **続けていく** ・ **なくすべき** べきだと考えます。

そう判断する理由は、

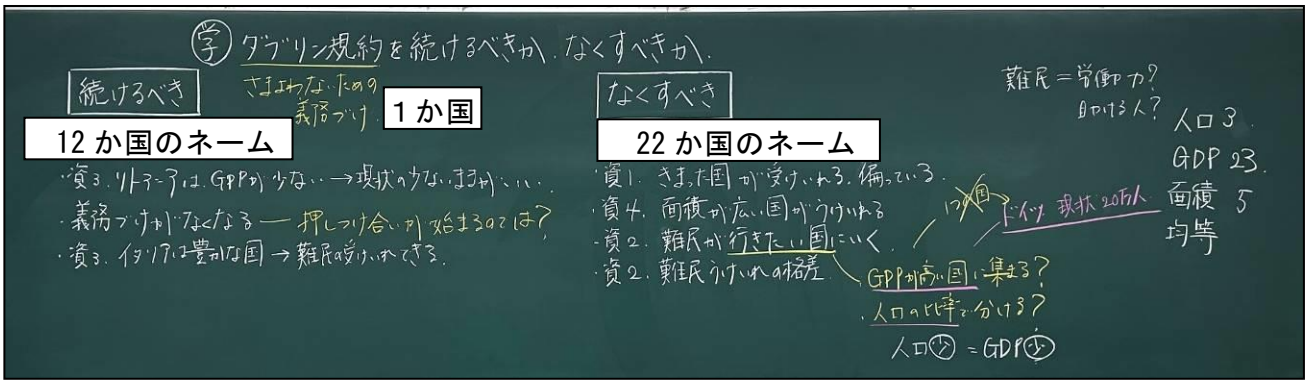
・資料　2　から…ダブリン規約があっても申請数が国ごとに差が激しいのに、なくなったら、さらに片よりそうだから。

・資料　3　から…フランスは、けっこう申請きてるけど、そのぶんGDPも多いから、少ない国に行くよりは、多いところにきたほうが少ない国が助かりそう。

・資料　6　から…人口も、増えてはいるけど、面積の大きさも大きいから小さい国に行くよりは、争いとかおきなさそうだから。

抽出生徒Ａはフランスとしての立場（ダブリン規約がなくなると、より自国に難民が集中してしまうおそれがある）と自己の価値観（難民受け入れは国として当然の義務である）の間でジレンマを感じていることが分かる。抽出生徒Ｂはルーマニアとしての立場に加え、第４時のシェンゲン協定の議論（貧しい国が豊かな国に無下に扱われたこと）から、豊かな国や大きい国が引き受けるべきという考えが強い。抽出生徒Ｃは自国はこれ以上受け入れることも難しいが、他の国に難民を回すよりは現状を維持する方が良いと考えている。

第７時：ダブリン規約を続けるべきか、なくすべきか



第７時は、授業が始まる前にグループ内で自分の立場を紹介し、その後各国がどちらの立場をとっているのかを上図のようにネームを貼らして明らかにした。（続けるべき：12 か国　なくすべき：22 か国　中立：１か国）そこから、全体において第２回ＥＵ会議を行った。以下、抽出生徒Ａのグループを中心にどのような語りが生まれているかを見ていく。

① **分析の視点**：〔視点〕資料に基づき当事者性を持って（担当している国として）、語られたか

② **分析の結果**：実線部が資料に基づいてその国として語っている部分

（４人班、ダブリン規約をつづけるべきか、なくすべきかで自分の立場とその理由を明らかにする場面）

抽Ａ：やろうぜ。じゃあ続けていくべきだと思う国？（抽ＡとＳ２が挙手）なくすべきだと思う国？（Ｓ３・Ｓ４が挙手）えっと、じゃあどうする？

Ｓ３：じゃあ、いいます。資料３を見てもらってもいいですか。ヨーロッパ各国のＧＤＰ･･･

Ｓ２：まずどこの国？

Ｓ３：あ、ポーランド。

抽Ａ：（資料を見ながら）はいはい、あー。

Ｓ３：500 億ドルあってお金に余裕があると考えました。で、（資料）４の各国の面積を見て、各国の面積を比べると全体的に広いってのがわかるんですよ。やから、なくすべきだと考えました。

抽Ａ：それは内陸の国の面積が大きいから、そちらの国にも申請して、入った方がいいってこと？

Ｓ２：申請、入ってもいいってこと？

Ｓ３：あかん。私はダブリン規約をなくすべきだと考えました。

抽Ａ：その理由って言うのが、つまり（トルコとの）国境沿いの（ギリシャなどを指して）こういう国が小さいから、ドイツ、フランス、スウェーデンの方が受け入れた方が良いってこと？

Ｓ３：そうそう。

抽Ａ：だから、ダブリン規約はなくすべきだと考えたわけね。

Ｓ３：で、資料６のシェンゲン協定における各国の人口増減率を見てください。ポーランドは人口が 0.1～10%減少しているのがわかります。そして難民を支配したら人口が増えるのではないかと考えました。

抽Ａ：支配って。

Ｓ２：その分、お金をあげないかんようになるよ？

抽Ａ：（ポーランドも含めて）いろんな国が受け入れるべきって考えているんやね。

（４人班、つづけるべき、なくすべき双方の立場を全体で聞いたあとに、グループ内で語り合う場面）

Ｔ　：では、ある程度いろんな論点がでましたけど、各グループでこれはどうなん？とか確認をしてください。どうぞ。

Ｓ３：難民受け入れの格差とは？

抽Ａ：えっと、それは国境沿いの国がいっぱい受け入れなくちゃいけないよねっていう。

Ｓ２：うん。

Ｓ３：あー、理解しました。

抽Ａ：まあ、どちらにしろドイツ、で、○○さんが言っていたのは、○○さんってどこやろ国、まあいいや。どちらにせよさ、ドイツとか国境沿いの国ではないけど行っている人がいるやん。で、その人たちが行きたい国があるんなら、そっちに行ってもらった方がいいんじゃないかなって言いよんやけど。楽に行けるやん、そっちの方が。

Ｓ３：なくすべきの意見側として、例えばエストニアとかスロベキアとか海に面している…

（グループ内での対話が終わっていないにも関わらず教師がとめた）

Ｔ　：ちょっとドイツから意見があるようなんで、どうぞ。

Ｓ５：あの、なくした時にＧＤＰが高い国に集まるってあったじゃないですか。で、あの、僕ＧＤＰが高いんですよ、ドイツなんで。で、僕高いので、僕は高いのでみんな僕のところに来ちゃうんですよ。で、あの、現状ドイツ、資料２を見てもらったら分かるんですけど、他と桁が違うんですよ。パンクしちゃうじゃないですか。今これ、ダブリン規約がある状態で、この格が違う申請数なんで、ダブリン規約がなくなっちゃうと絶対みんなさらに来るじゃないですか。あの、僕が住む場所が無くなっちゃうんで、ちょっとやめていただきたい。

Ｔ　：はい、ということで、今なくすべき側への問いかけですよ。なくした時に、ドイツ、うちに集まるんじゃないか、です。じゃあ、どうしますか？

（４人班、ドイツの主張を聞いたあとにグループ内で語り合う場面）

Ｓ２：たしかに。

抽Ａ：みんなドイツに押し付けるよね。もしなくしたら、そういう押し付け合いが始まっちゃうし、続けても、やっぱりどちらにしろ偏りが出ちゃうやん、難民受け入れの･･･。（間が開いて）なんか意見ある？

Ｓ２：うーん･･･。

（全体、ドイツの主張を聞いてグループ内で語り合った後の場面）

Ｔ　：では、ドイツからの提言はどうですか？なくすと豊かな国に集まっちゃうというやつ。お、ではどうぞ。

Ｓ６：だから、僕の（案）を使えば良いんですよ。

Ｔ　：僕のを使う？

Ｓ６：ＧＤＰが高いところとか、そういうのを考えながら、人口密度のこととかも考えながら。例えば、今あんまり人口がいない、これを言ったら申し訳ないんですが･･･。

Ｔ　：いいよ、どうぞ。

Ｓ６：ポルトガルとか･･･。

Ｔ　：あー、なるほどね。ＧＤＰが高い国じゃなくて、例えば、人口の少ないところとか。どこがありますか？

Ｓ７：ポルトガルは 1000 万人超えている。アイルランド、エストニア、ラトビア、リトアニア･･･。

Ｔ　：じゃあ、その国が引き受けたらいいってことね。どうですか？

Ｓ８：金がない。

Ｔ　：お、どうぞ。

Ｓ８：人口が少ない国は大体ＧＤＰが少なくて、お金が足りないと思います。

（周りから、「あー」の声）

Ｓ９：でもそれやったらさ、誰かが言いよったみたいに、難民を働かせて、ちょっとあれしたらいいんじゃない。

Ｓ７：いや、思うんですけど、働いてもらったところで、この前まで難民やった人が急に年間 190 万円（第６時で出た難民１人あたりに係る費用）以上稼げよって多分無理なんですよ。なので、その受け入れた国がちょっと貧しくなるのはそのまんまなんで。

Ｔ　：じゃあ、ＧＤＰが多い国に行くのはだめ？

Ｓ10：難民が１つの国に偏るのはだめ。

Ｓ５：なので、結局ＧＤＰはあるんですよ。でも、人口がいっぱい来ちゃうとその土地が無いんですよ。なので、土地が、まだ受け入れができてＧＤＰが低い国ってあったじゃないですか。に、支援してあげて、豊かな国が、助け合いながら。

Ｔ　：今、ドイツ案です。小さい国、どこですか？自分の国が小さいよって人？（多くの生徒が手を挙げる）小さい国は引き受けられない。土地が広くてＧＤＰがそんなに高くない国ってどこですか？例えばどこの国を思っているの？

Ｓ11：ノルウェーとかフィンランドとか。

Ｔ　：ノルウェー、フィンランドの人、どうですか、この提案。

Ｓ12：フィンランドは別にいいです。

Ｔ　：ノルウェーはどうですか？お金を出すから引き受けるのはどう？

Ｓ13：・・・・・・。

Ｔ　：え、もう１回確認やけど、みなさん助けたいのではないのですか？難民、助けるんじゃなかったのですか？

（全体から、「助けます」の声）

Ｔ　：完全に押しつけ合っているんですが・・・。今の感じで行くと納得がいってないんやろ？じゃあ、お互いが納得する形は何なのですか？それをグループで考えてもらって良いですか？

（４人班、各国が合意する形を模索する場面）

抽Ａ：うーん、（ドイツ案は）悪くない案やと私は思うんやけどな。

Ｓ３：土地とお金が余っている国で、まだ受け入れれるよって国が、難民として来た人に頑張って働いてもらったらいんじゃ。

抽Ａ：でもさ、まず労働力として考えるのは私はなんか基本的に無理かなと思っとって。

Ｓ２：うん、俺も無理やと思う。

抽Ａ：例えばさ、私たちがさ、今からいきなりアメリカ行って働けって言われたらさ、大人やったとしても、絶対英語話せんかったら意味分からんし。そもそも環境ちがうやん。

Ｓ３：その国にあった言語を教えてくれるような学校にとりあえずはめて・・・。

Ｓ２：いや、でも、そのさ、そのお金がいるんよ。その学校に。

Ｓ３：それは、国が払う。

抽Ａ：難民がさ、そもそもその国に定住するかわからんやん。戦争が終わったら帰るかもしれんやん。

Ｓ３：そっか。

抽Ａ：そう、文化が違うし、嫌じゃない？だって自分の母国から離れろっていわれたら。戻って来たくない？そんな長い目で見ても大丈夫なんかなとは思ってしまう。一時的に確保するにはさっきのドイツの案が、今のところまともなんじゃないかなと思う

Ｓ２：でもさ、ここ（スカンディナビア半島を指し）とかもさ、大分おるよ。

（全体、各国が合意する形を模索する場面）

Ｔ　：今、なんか案が出てますか？ギリシャ案聞いてもらって良いですか？

Ｓ９：ダブリン規約は継続。受入数は現状のままで、難民がある程度自立できたら、お金を返済してもらう。

Ｓ５：え、返せよってこと？

Ｓ９：全部とはいわん。

Ｓ７：返せるかどうか分からん。逃げるとか。

抽Ａ：私たちの班は難民を労働力っていう風に考えるのが無理だなと思って。大人であってもそもそも言語が違えば難しいと思うし、宗教とか考え方が全然違う人たちの中で働きたいとは絶対難民の人たちも思わないじゃないですか。多分自国に帰りたいと思うんですよね。だから返済してもらうとかそんな長い目で見て大丈夫なのかな？とは思います。

（意見を受けて、ざわつき）

Ｔ　：ギリシャはここで返してくれると信じたいと言っていますが。お、ルーマニアさんどうぞ。

抽Ｂ：面積が小さい国とか、ＧＤＰが少ない国は難民をたくさん受け入れられないから、面積が大きい国とかＧＤＰが多い国に見合った難民の量をそこに入れてあげて、それで小さい国にはそれに見合った難民の量を入れてあげるのが良いと思いました。

Ｔ　：配分説ですか。

上記の語り合いを経て、ルーマニアからＧＤＰ、面積などの比率によって配分する案が出たため、「各国のＧＤＰに基づいて難民申請を配分した主題図」を配布した。現状の難民申請より減少して喜びの声と増加したため不満の声が挙がった。「面積では？」という声が聞かれたため、面積による配分、人口による配分の資料も配付したが、すべての国が合意するものはなかった。実際のヨーロッパでも難民申請を配分することが唯一の解決方法として、各国が議論を重ねたが、東欧が配分の受け入れを拒否したこと、一方でドイツが 100 万人の受け入れを認めることを発表して国内でデモが多発し難民排斥が生まれたことを紹介した。そして、日本は難民受入数・申請数ともに低いこと、ＵＮＨＣＲに対する拠出金は世界でも３位であることを紹介し、「日本とはどんな国なのか」を投げかけて、振り返りを書かせた。

（３）　結果からの考察（成果と課題）

【成果】

- **ヨーロッパ州の学びに当事者性を持たせるためのしかけ**

本単元では、単元を通して担当する国を決めることで、ヨーロッパ州の学びに対して、生徒の当事者性を高めることをしかけたが効果的であったと考える。一般的に他地域の社会問題を考える際、どの立場で考えれば良いのかが分からなくなる、自分の考えにこだわりを持てないことがあるが、第７時の生徒の語り合いからは「～の国として語る」姿が多く見られた。その大きなきっかけは第４時のシェンゲン協定の是非における語り合いであった。この語り合いの場で、自国と他国の考えの違いから生まれる様々な感情によって、より担当している国として語る姿勢が強まったと考えられる。

ただし、今回はくじによって担当国を決めており、十分に自国を調べる場も確保できていない。そのため抽出生徒を始め、生徒の文脈から乖離しているものとなっている。あらかじめ、生徒の希望をとり（重複した場合はくじ）、自分で国を選択したという感覚が生まれる方が、より学びに当事者性が生まれるのではないかと考える。

【課題】

- **難民の受け入れに対して、悩み葛藤するためのしかけ**

第７時の語りを見ると、生徒たちは真剣には考えているが、自国優先の姿勢がやはり強い。難民を守りたい、しかし自国も守りたいとなることで、より深い語りが生まれるため、生徒の情意面に対してしかける必要がある。

- **社会的自己を捉え直すための手立て**

単元終了後につむがれた「ものがたり」を分析すると、「社会的自己＝（今・ここに生きる私）」を捉え直す視点が弱い。例えば、第７時はＥＵ会議を踏まえたヨーロッパの姿勢（自国主義と人道主義）について振り返り、第８時でその視点を踏まえ「もし日本に難民が来たら受け入れるべきか、どうか」を語り合った上で、日本の現状を提示し、自分の語りや日本の現状を捉え直す場を設ける必要があると考える。

- **語り合う場における教師のファシリテート**

グループ内での語り合いが不十分なまま、全体に戻している場面がいくつか見られた。より生徒の語り合いに付き合う姿勢が必要となる。